

【水稻の生産コスト低減—省力化、規模拡大を支える直播栽培】近年、水稻生産は今、大きな転換期を迎えています。農業就業者の減少や高齢化、資材・燃料費の上昇、春作業の過密化など、従来の作業体系では安定した経営を続けることが難しくなりつつあります。農水省の「稻作の現状と課題」でも、労働力不足や作業の集中、規模拡大に伴う負担増が主要な課題とされ、生産コスト低減は避けられないテーマとされています。

特に、育苗・田植えといった春作業に労力が集中する“春のピーク”は、規模拡大の大きな障壁です。この負担を平準化するため、省力化やスマート農業、育苗省略など、ピーク労働を減らす技術の導入が求められています。こうした背景の中で注目されているのが直播栽培です。直播は育苗・田植え工程を省略でき、春作業の負担を大幅に削減できるため、省力化体系の有力な選択肢となっています。

9月25日には、農水省主催で第一回「田植え不要の米づくりコンソーシアム」が開催され、節水型乾田直播を中心に実践事例が紹介されました。直播は大きな省力効果が期待される一方で、適切な技術理解が欠かせないことが多くの発表者から指摘されています。

直播には、①発芽・苗立ちを安定させる段階、②雑草との競合を抑える段階という二つの重要ステップがあります。発芽には気象条件や土壤水分、播種深など多くの要因が影響し、その後の雑草管理は直播特有の大きな課題です。移植体系とは異なり、稻と雑草が同時に動き出すため、初期除草や水管理の判断が収量に直結します。コンソーシアムでも「直播は初期管理が勝負」との意見が多く、成功事例では出芽確保の工夫や除草体系見直しが報告されました。また、導入が順調な生産者ほど、まず小面積で試験し、自らの圃場に合う方式を見極めたうえで段階的に拡大しています。直播は大きな可能性を持つ技術ですが、従来体系とは異なる管理が求められるため、慎重な導入が重要です。

直播栽培は、省力化・低コスト化・規模拡大を支える有望な技術です。稻作の課題が顕在化する今こそ、地域や経営規模に応じて無理のない範囲で取り入れ、持続的な生産体制の確立に向けて検討してみてはいかがでしょうか。



## 【直播技術の種類】

農水省「水直播栽培」より抜粋

### 湛水直播（技術確立済）

- ・湛水状態で播種する栽培技術。
- ・作業負担の大きい田植えが不要となるため、省力化。

### 乾田直播（技術確立済）

- ・畑状態で播種し、一定期間後に水を張る栽培技術。
- ・田植えに加え、代かきも不要となるため更に省力化。

→導入ハードルの低減による普及

### 節水型乾田直播（新技術）

- ・畑状態で播種し、水を張らずに、水の散布のみで栽培する技術。
- ・田植え、代かきに加え、水管理も省力化。
- ・栽培期間を通じて畑状態で栽培する、従来の水稻栽培とは異なる栽培管理が必要な技術であり、現状収量が極めて不安定。

→収量安定化に向け、技術確立が必要

## 業務用米栽培

当社はゼンショーヨーの委託栽培米サポーターとして業務用米栽培に取り組む生産者を応援しています。麦作後に栽培可能で、食味は「コシヒカリ」に近いと言われる国産の専用品種で栽培頂きます。

## 業務用米の需要

中食・外食等の業務用米の需要は今後も堅調な推移が期待される一方、現状は家庭内食向け需要である高価格帯銘柄の作付比率が高く需要と生産のミスマッチが起きています。需要が増えている業務用米の作付比率を増やすことで、新規需要の拡大を見込むことが可能です。

## 収量で収益増加

業務用米は比較的安価で取引されますが、収量でカバーできるためうまく活用できれば同等かそれ以上の収益を得ることが可能。また、中食・外食産業と複数年での契約栽培ができればさらに安定した収益を確保することが可能になります。業務用米生産に興味がある生産者の方は当社までご相談ください。



## 田植えをしない水稻栽培が拓く新しい米作り —直播栽培と業務米の可能性—

40名  
限定



日時：12月16日（火）PM1:30-4:30

会場：サンメッセ香川 2F 特別会議室

生産現場・需要側・技術サポートの3方向から最新の実践事例を紹介

- ・ゼンショーヨー業務米栽培の取組み
- ・直播栽培の実践事例・サポート事例  
あぐりーど玉野  
BASF ジャパン  
エアーアシストジャパン

申込みはこちら



株式会社 喜多猿八

PHYTOCHROME

## 大気中の窒素を植物に有効利用

N-Catch  
エヌキャッチ

- 収穫物の生産性と品質の向上に -



水稻やその他の作物に



## バイエル シードグロース®

「種子処理」。これが、新時代の病害虫防除。

### 水稻種子処理とは

種子に直接薬剤を塗沫処理することにより、田植え後の本田での病害虫を防除することができる、新しい薬剤的な処理方法です。塗沫処理と同等の効果、強効性を発揮します。

- 農閑期に薬剤処理ができるので、忙しい春先の作業を軽減できます。
- 直播栽培・移植栽培のいずれにも活用できます。
- 高密度播種にも対応可能です。



バイエル シードグロース®

バイエル  
シードグロース®

「多品目栽培」  
だったら、  
グレーシア。



早く効く。あの害虫<sup>1)</sup>にも効く。  
だから、収量に差<sup>2)</sup>がつく。

グレーシア<sup>®</sup> 乳剤

■ 有効成分フルキサメタミド配合。幅広いショウジョウ害虫に卓効  
■ 害虫効果は約2週間持続  
■ アジミクシ、コロナジミ、ハダニ類などの駆除効率も可能<sup>3)</sup>  
■ ミツバチ、マリナナガは翌日摺入可能

<sup>1)</sup> お問い合わせ窓口にてお問い合わせください。詳しくはお問い合わせ窓口にてお問い合わせください。<sup>2)</sup> お問い合わせ窓口にてお問い合わせください。<sup>3)</sup> お問い合わせ窓口にてお問い合わせください。

シヨヤツリクポット<sup>®</sup>  
顆粒水和剤

ヨトウ類に活性の高い「アイザワイ系統」とコナガ・アオムシ・オタバコガに活性の高い「クルスター系系統」の両方の殺虫活性を併せ持つハイブリッド型BT剤です

シロイチモジヨトウ  
発生拡大の防止対策に！



コナガ  
アオムシ  
ハスモンヨトウ  
オタバコガ

キャベツ・はくさい  
レタス・ブロッコリー  
非結球レタスの

ベニ病に  
安心Wの効果

効く

ドローン・無人航空機  
散布OK  
レタス・はくさい・キャベツ  
ブロッコリー<sup>IN NEWS</sup>



マンジプロパミド オキサチアビプロリン  
浸透性 上方移行性  
耐雨水 残効性



最新の登録情報はコチラ



オロンディス<sup>®</sup> ウルトラSC

syngenta.

2つの有効成分が病原菌の全生活環に強力な殺菌作用を発揮。  
既存薬剤の耐性菌にも有効で、優れた効果と安心が続きます。

IGR殺虫剤

ロムダン<sup>®</sup> フロアブル

殺虫剤分類 18

キャベツ・ねぎの  
シロイチモジヨトウの  
防除に!!

- ① ユニークな脱皮促進作用
- ② 安定した効果
- ③ 環境に対する影響の少ない薬剤



製品詳細はごちらから



日曹の農薬

べと病、疫病、白さび病、立枯病を  
ビシッとロック!!



殺菌剤

ビシッとロック<sup>®</sup>  
フロアブル

カモンビービーアロマ<sup>®</sup>

園場に吊るすだけ 納得のハチ交配



株式会社 喜多猿八

【本社営業所】

〒761-0611

木田郡三木町田中 2582

TEL 087-898-1200

【観音寺営業所】

〒768-0011

観音寺市出作町北道 1062

TEL 0875-25-3086



dji AGRICULTURE

**喜多社長のフィロソフィ日記「AI活用と問い合わせの質」** 私がAIを使い始めたきっかけは、「毎月のアグリ通信づくりを、なんとか効率化できないか」という、かなり現実的な悩みからだった。最初は無料のGoogle Geminiを試してみたけれど、すぐに利用制限で頭打ちになり、「これは業務で使うには厳しいな」というのが正直なところだった。その後、ChatGPTを試験的に課金して使ってみたところ、一気に状況が変わった。文章を整える、特集の方向性を一緒に考える、フィロソフィ日記の叩き台をつくる、SNSやメルマガの配信文をまとめる——今まで私ひとりで唸りながら進めていた作業が、短時間で形になっていくようになった。最近では、社内の規定文書に不備があり、その再整理をChatGPTに頼んでみたところ、本来なら半日～1日はかかる作業が20～30分で網羅的にまとめて戻ってきた。あまりの速さと精度に、思わず唸ってしまった。

一方、農業の現場でもAI活用は着実に広がっている。先日、BASFからザルビオの説明を受けた。節水型乾田直播に挑戦する先進的な生産者と協働して圃場データを積み上げ、積算温度・気象データ・播種時期などをもとに、病害虫の発生予測や雑草が生えてくるタイミングをAIで推定するというものだった。農業はこれまで、経験と勘が大きな判断材料だった。その力は今でも重要なた。ただ、地球温暖化の影響で夏場の高温化が進み、従来の経験だけでは読み切れない場面が増えてきている。そこにデータという新しい視点が加わることで、営農判断そのものがアップデートされていく——そんな未来の兆しを感じた。

そして私が強く感じているのは、AI活用は“プロンプトの質”で決まるということだ。こちらの問い合わせが曖昧なら、返ってくる答えも曖昧。目的や前提、欲しい方向性を整理して質問すれば、AIは驚くほど精度の高い答えを返してくれる。つまり、AIをどれだけ活かせるかは、こちらの“問い合わせの力”にかかっている。これは、AIだけでなく部下や従業員との関わりにもそのまま当てはまると感じている。「部下が使えない」「指示待ち人間ばかりだ」と言う前に、自分がどんな問い合わせを投げかけ、どんな接し方をしているのかを考える必要がある。部下が安心して意見を言える心理的安全性をつくれているのか、自分の問い合わせが相手の思考を引き出すものになっているのか——AIとの対話を通じ、考えなければならないなど感じた。

昔から「力ニは自分の甲羅に似せて穴を掘る」と言われるように、社長の思考の枠以上に会社が成長することはない。だからこそ経営者自身が“問い合わせの質”を磨き、同時に社員にも“自分の頭で問い合わせを立てる力”を育んでもらう必要がある。AI時代に求められるのは、まさにこの“考える力”だと思う。

AIは便利な道具でありながら、私たち自身の思考の質を映す鏡でもある。AIに任せるところ、人が担うべきところを見極めながら、これからも視座を高めていきたい。

株式会社 喜多猿八

【本社営業所】  
〒761-0611  
木田郡三木町田中 2582  
TEL 087-898-1200

【観音寺営業所】  
〒768-0011  
観音寺市出作町北道 1062  
TEL 0875-25-3086

